

## 基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます (2) 活力あふれる府立高校づくりをすすめます

## 【基本的方向】

- ① グローバル社会で活躍できる人材の育成やセーフティネットの整備など社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実をすすめます。
- ② キャリア教育や不登校・中途退学への対応など生徒一人ひとりの自立を支える教育を充実します。
- ③ 計画的な施設整備や ICT 環境の充実により、府立高校の教育環境の整備をすすめます。
- ④ 府立高校の新たな特色に応じて、中学生にとってより一層公平でわかりやすい入学者選抜制度とします。
- ⑤ 各校の教育内容の充実を図るとともに、将来の生徒数等を勘案した効果的かつ効率的な学校配置をすすめます。

## 【主な取組み】

基本的方向	具体的取組名 (事業名)	実施内容
①	グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) の充実 (グローバルリーダーズハイスクール支援事業 ＜参考資料 P156＞)	GLHS10 校共同で、海外派遣研修、課題研究の発表会などを実施した。 各学校の活動実績を評価する評価審議会委員が 10 校の平成 26 年度の取組みを評価し、平成 27 年度評価にむけて、学校訪問や校長ヒアリングを実施した。
	工科高校の充実 (実業教育充実事業 ＜参考資料 P158＞)	老朽化や安全性を考慮し、設備の更新及び施設の改修を行うとともに、産業界からのニーズや学習指導要領に対応した設備を導入した。 また、平成 26 年 4 月から工科高校 9 校それぞれの持つ強みを生かし、人材育成を重点化した 3 つの型 (①「高大連携重点型」、②「実践的スキル養成重点型」、③「地域産業連携重点型」) に分け、目的に応じたカリキュラムや学習プログラムを展開した。
	生徒の「学び直し」等を支援する新たな学校の設置 (エンパワメントスクールの設置 ＜参考資料 P159＞)	平成 27 年 4 月に開校したエンパワメントスクール 3 校 (西成高校、長吉高校、箕面東高校) については、研修会等を通じて教員の授業力向上を図った。 平成 28 年 4 月に開校する 2 校 (成城高校、岬高校) については、施設・設備の整備やプロジェクトチームの運営、中学生等への PR を行った。 また、新たに 1 校 (布施北高校) の設置 (平成 29 年 4 月開校予定) を決定した。

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
②	不登校の減少・中途退学防止の取組み (＜参考資料 P161＞)	中退率の高い33校に中退防止コーディネーターを配置し、中高連携や校内組織体制づくりを推進するとともに、全府立高校が参加する中退防止フォーラムを開催し、中退防止に効果をあげている学校の取組みを共有化した。
	障がいのある生徒の高校生活をサポートするための人材の配置 (障がいのある生徒の高校生活支援事業 ＜参考資料 P162＞)	障がいのある生徒の心身のケアや支援などを行うため、全ての府立高校にエキスパート支援員としてスクールカウンセラーを配置した。 また、生徒一人ひとりの障がいの状況に応じた学校生活支援を行うため、要望があった学校に学習支援員及び介助員を配置した。
③ 【基本方針7 基本的方向③ 及び基本方針 8 基本的方向 ①の再掲】	府立学校の老朽化対策と空調設備等の整備推進 (府立学校老朽化対策事業 ＜参考資料 P167＞) (特別教室空気調節設備整備事業等 ＜参考資料 P167＞)	老朽化対策については、大阪府ファシリティマネジメント基本方針に基づき、「府立学校施設整備方針」を策定した。 府立学校7校で老朽化したエレベーターの改修工事及び府立学校5校で実施設計を実施した。 府立学校10校で、外部改修工事を実施した。 府立学校5校で内部改修に係る実施設計及び8校で外部改修に係る実施設計を実施した。 府立学校31校で空調設備を設置した。 府立学校4校でエレベーター、同3校でスロープ、階段手すり設置工事等を実施した。 府立学校3校で老朽化が著しいトイレ設備の改修工事を実施した。
	府立学校施設の耐震性能向上・大規模改修 (耐震性能向上・大規模改修事業 ＜参考資料 P166＞)	府立学校6校の13棟で耐震・大規模改修工事を実施した。 非構造部材の耐震化として、府立学校2校で屋内運動場の吊り天井と、府立学校13校で屋内運動場、府立学校26校で武道場の天井・照明等の工事を実施した。 平成28年度工事予定の府立学校15校で屋内運動場と、府立学校28校で武道場の天井・照明等の実施設計を実施した。
	府立学校のICTネットワークの統合 (府立学校教育ICT化推進事業 ＜参考資料 P168＞)	平成26年4月より稼働している府立学校統合ICTネットワークについて、ネットワーク機器の設定内容を見直し、データセンターと学校間のネットワーク通信の安定化対策を実施した。また、大阪市から移管された特別支援学校について、府立学校統合ICTネットワークの整備を実施した。

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
④	入学者選抜の調査書における目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の導入 （＜参考資料 P169＞）	<p>調査書における目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の導入については、新たな制度での入学者選抜の実施に向け、市町村教育委員会、中学校や高等学校の校長等対象の説明会を例年よりも早期に行うとともに、生徒、保護者への説明用のリーフレットを配付し、周知を行った。</p> <p>また、4月の臨時教育委員会会議で、府立高等学校入学者選抜における中学校3年生の目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）について、府内統一の基準を決定し公表した。</p>
⑤	府立高校の再編整備の計画的な推進 （府立高等学校再編整備事業 ＜参考資料 P170＞）	<p>大阪府立学校条例及び大阪府立高等学校・大阪市立学校再編整備計画に基づく平成27年度実施対象校及び再編方針案を9月に公表し、その後、府議会での議論や保護者等への説明を経て、11月に決定した（エンパワメントスクールへ改編する学校1校、普通科総合選択制から改編する学校5校、再編整備の手法について検討する学校1校、募集停止の決定に際して、平成28年度入学者選抜の志願動向を見極める学校1校）。</p> <p>入学者選抜の志願動向を見極める学校については、平成28年度入学者選抜の結果を踏まえ、平成28年3月に平成29年度入学者募集時から募集停止とすることを決定した。</p>

【指標の点検結果】

指標	目標値 (H29 年度)	H24 年度実績値 (計画策定時)	H27 年度実績値	点検結果	
○指標 12 学校教育自己診断における 生徒の学校生活満足度	全府立学校で 70%以上を めざす (注 1)	70%を上回った学校 110 校 / 170 校	70%を上回った学校 126 校 / 175 校  〔 H26 年度実績 70%を上回った学校 117 校 / 173 校 〕	△	平成 27 年度実績は、計画策定時の 実績を上回った。
○指標 13 府立高校卒業者の就職率 (就職者の就職希望者に 対する割合)	全国水準をめざす	93.2% (全国 : 95.8%)	94.0% (全国 : 97.7%)  〔 H26 年度実績 93.7% (全国 : 97.5%) 〕	△	平成 27 年度実績は、計画策定時の 実績を 0.8 ポイント上回ったが、 全国平均との差は 2.6 ポイントか ら 3.7 ポイントに拡大した。
○指標 14 府立高校全日制課程の 生徒の中退率	全国水準をめざす	1.8% (全国 : 1.0%)	1.5% (全国 : 0.8%)  〔 H26 年度実績 1.5% (全国 : 0.9%) 〕	△	平成 27 年度実績は、計画策定時の 実績を 0.3 ポイント改善し、全国 平均との差も 0.8 ポイントから 0.7 ポイントに縮小した。
○指標 15 進路実現率	グローバルリーダーズハ イスクールにおける現役 での大学進学率を向上さ せる	グローバルリーダーズハ イスクールにおける大学 進学率 現役進学率 : 60.6%	グローバルリーダーズハ イスクールにおける大学 進学率 現役進学率 : 66.5%  〔H26 年度実績 64.7%〕	○	平成 27 年度実績は、計画策定時の 実績を 5.9 ポイント上回った。
	工科高校における高度職 業資格取得者数について 300 人をめざす (注 2)	工科高校における高度職 業資格取得者数 150 人	工科高校における高度職業 資格取得者数 210 人  〔H26 年度実績 190 人〕	△	平成 27 年度実績は、計画策定時の 実績を 60 人上回った。

(注 1) 一部の支援学校については児童・生徒の状況を踏まえて診断項目を設定しているため、学校生活満足度を測る項目についての調査を実施していないことから、「全府立学校」には一部支援学校を含  
まない。

(注 2) 「高度職業資格取得者」とは、旋盤など技能士検定 (国家検定) 等の取得者を示す。

## 【自己評価】

- ① グローバル社会で活躍できる人材の育成やセーフティネットの整備など、社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実をすすめます。
- ・グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）や国際関係学科の設置など府立高校の充実を進めた結果、学校教育自己診断における生徒の学校生活満足度は上昇したが、全府立学校で生徒の学校生活満足度 70%以上をめざすという目標に対してより一層の取組みが必要である。
  - ・グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）については、各校が教員の授業力向上や進路指導の充実に努めるとともに、学習合宿や進学講習に取り組んだ結果、現役での大学進学率の向上という目標を達成し、指定した 10 校において大学進学実績で成果をあげた。
  - ・工科高校については、高度な職業資格取得に対応した学習内容の充実を図った結果、高度職業資格取得者数が増加傾向にあるが、伸び悩んでいる。今後、理工系大学への進学の推進や高度な資格取得、地域産業との連携について、生徒の進路希望の実現に向け、より一層の取組みが必要である。また、中学生、保護者や中学校教員へ工科高校の魅力を一層発信していくなど、積極的な働きかけに向けて検討を始めた。
- ② キャリア教育や不登校・中途退学への対応など生徒一人ひとりの自立を支える教育を充実します。
- ・キャリア教育については、公立・私立高校卒業者の就職率が、全国平均に比べると依然、低位にある。また、平成 26 年度から取り組んでいる「キャリア教育支援体制整備事業」において、就職支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカーを配置した対象校で、平成 27 年度の就職内定率が平成 26 年度と比較して 1.0 ポイント減少している。これは、キャリア教育の取組みにより、生徒の就労意欲を高めることで就職希望者が増加したものの、明確な職業イメージを持たずまでにはいならず、また生徒の希望と職種がマッチングしなかったため、内定率を上昇させるまでにはいかなかったことによるものである。引き続き、就職支援コーディネーター等と連携し、対象校における校内体制の強化を図り、キャリア教育の充実を努めていく。
  - ・中途退学については、平成 27 年度の府立高校全日制課程の生徒の中退率は、前年度と同様、横ばいとなり、全国との差については 0.1 ポイント広がった。不登校・中途退学への対応については、高校中退防止コーディネーターの配置や各校の取組みの共有化を行い、さらに平成 26 年度から全ての府立高校の入学生に対して実施している「高校生活支援カード」により、高校生活に不安を感じている生徒や不登校の経験がある生徒を把握し早期から支援を行う等、各学校の状況に応じた取組みを進めており、スクールカウンセラー等の外部人材とも連携し、引き続き、中退率の減少に努めていく。さらに、教育庁内に中途退学担当を責任者として位置付け、福祉部等の関係部署としっかり連携する体制を検討していく。

③ 計画的な施設整備や ICT 環境の充実により、府立高校の教育環境の整備をすすめます。

- 府立学校の施設整備については、耐震大規模改修工事及び非構造部材の耐震化を計画的に実施し、地震発生時における生徒・教職員の安全確保を進めた。耐震改修については、平成 27 年度末までに耐震化率 100%を達成した。また、非構造部材の耐震化（照明器具等落下防止対策）については、早期の完了をめざしており、屋内運動場吊り天井等の工事と来年度の工事に向けた実施設計を行った。さらに、特別教室への空調設備の設置やトイレ設備の改修工事についても計画的に実施し、良好な学習環境の整備を進めた。
- 府立学校の老朽化対策については、平成 28 年 3 月に実施方針（府立学校施設整備方針）を策定し、今後この方針に基づき取り組んでいく。（基本方針 8 基本的方向①の再掲）
- 全府立学校へ展開している統合 ICT ネットワークについて、11 月にネットワーク及びサーバの設定内容の最適化を行うとともに、平成 28 年 4 月に大阪市から移管された特別支援学校 12 校について、統合 ICT ネットワークの整備を行い、メール・インターネット・総務サービスシステム（SSC）及び校務処理システムを利用できる環境を構築することで、更なる品質向上・安定化を図った。（基本方針 7 基本的方向③の再掲）
- 長期入院している生徒等への学習支援として、1 校で遠隔授業サポートシステムを確立した。

④ 府立高校の新たな特色にに応じて、中学生にとってより一層公平でわかりやすい入学者選抜制度とします。

- 調査書の絶対評価導入にあたっては、平成 27 年 4 月の臨時教育委員会会議で、府立高等学校入学者選抜における中学校 3 年生の目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）について「全国学力・学習状況調査」を活用した府内統一の基準を決定し、公表した。
- 新しい選抜制度について、配点、学力検査問題の種類、調査書・成績一覧表の様式等を平成 27 年 5 月に決定し、市町村教育委員会、中学校や高等学校を対象に、例年より早い時期に説明会を実施し、丁寧な周知に努めた。10 月には選抜実施要項及び配慮事項を決定し、上記と同様、関係者への説明会を開催した。
- 11 月に、文部科学省が、平成 28 年度の「全国学力・学習状況調査」の結果を入学者選抜に関する資料として使うことはできないとしたため、平成 29 年度入学者選抜においては「全国学力・学習状況調査」に替えて中学 3 年生を対象に実施する独自の府内統一テスト（中 3 チャレンジテスト）を実施し、その結果を活用することとて、入学者選抜制度の安定性、継続性を確保することとした。

⑤ 各校の教育内容の充実を図るとともに、将来の生徒数等を勘案した効果的かつ効率的な学校配置をすすめます。

- 府立高校の再編整備については、平成 25 年 11 月に策定した「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」に基づき、平成 27 年度にはエンパワメントスクール 3 校（西成、長吉、箕面東）を開校し、普通科総合選択制高校 3 校（福井を総合学科に、八尾翠翔、日根野を普通科専門コース設置校に）を改編した。また、平成 28 年度入学者選抜より 2 校（池田北、咲洲）の募集停止を行うとともに、平成 28 年度からのエンパワメントスクール 2 校（成城、岬）の開校と普通科総合選択制高校 4 校（豊島、北かわち皐が丘、みどり清朋、懐風館を普通科専門コース設置校に）の改編に向けて、教育内容や施設・設備に係る準備を行った。
- 平成 27 年度に開校したエンパワメントスクール 3 校においては、基礎学力の充実のための「30 分モジュール授業」や社会で活躍する力を身に付ける「エンパワメントタイム」の実施など順調なスタートを切っており、生徒の欠席者数が前年度と比較して約 3～7 割減少、遅刻者数は約 3～5 割減少した。
- 平成 27 年度に再編整備をすることを決定した 8 校（布施北、門真なみはや、伯太、東淀川、かわち野、りんくう翔南、能勢、西淀川）については、開校・改編等に向けた検討や準備を進めた。引き続き、活力ある学校づくりと教育内容の充実に向けて、再編整備を進めていく。

### 【評価審議会における審議結果】

○府の点検及び評価結果は概ね妥当である。

#### 【基本的方向①について】

- ・「学校教育自己診断における生徒の学校生活満足度（指標12）」について、学校教育自己診断における生徒の学校生活満足度を上げていくために、例えば、管理職が、新任・転任教員に対し、当該学校の学校生活満足度に対する分析結果をしっかりと伝え、PDCAサイクルに基づき満足度を維持させる取組みが必要である。
- ・「生徒の『学び直し』等を支援する新たな学校の設置（具体的取組30）」については、今後中学卒業生が減っていく中で、エンパワメントスクールの設置といった新しいタイプの高校に移行しようという意欲が見えて非常に評価できる。一方、私立高校についても同様に特色のあるコース等を設けたりしている学校の情報があるのであれば発信していくべき。

#### 【基本的方向②について】

- ・「府立高校全日制課程の生徒の中退率（指標14）」について、「高校生活支援カード」等による早期からの取組みは具体的、個別的であり評価できる。中退率を減少させるためには、学校における取組みの充実と教育庁の支援体制の強化が望まれる。

#### 【基本的方向④について】

- ・「入学者選抜の調査書における目標に準拠した評価（絶対評価）の導入（具体的取組47）」については、着実かつ丁寧に入学者選抜制度の改革が進められていることはとても評価できる。ただ、制度が頻繁に変更になると生徒や保護者に混乱が生じる恐れもあるのでその点は十分留意して欲しい。

○補足意見

#### 【基本的方向①】

- ・「進路実現率（指標15）」のグローバルリーダーズハイスクールにおける大学進学率について、現役進学率が高くなっており評価できる。18歳人口減少との関係をわかりやすくするため、参考にグローバルリーダーズハイスクール以外の高校の現役進学率、あるいは全国平均等を記載していくと比較がしやすいと思う。

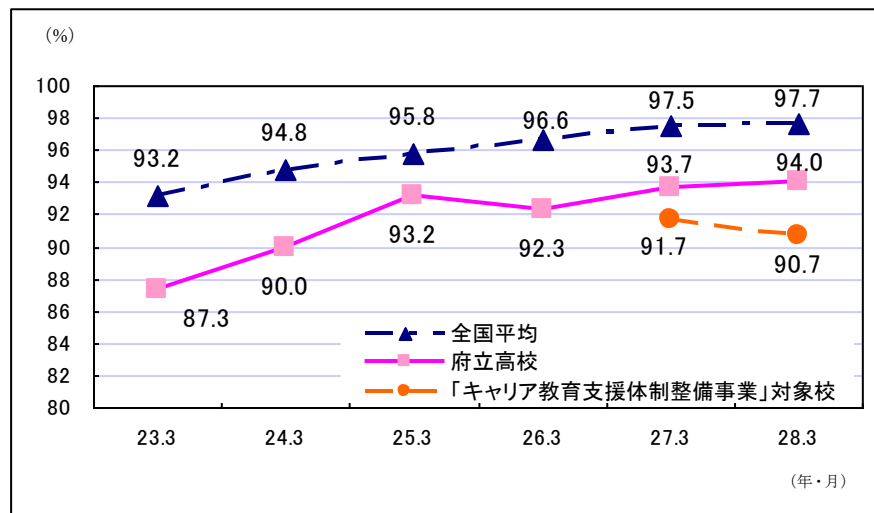
#### 【基本的方向②】

- ・中途退学の原因として、進路変更が増加傾向にあることが懸念される。
- ・中途退学を減らすためには、進路選択にあたって、それぞれの高校の特色などをよく知ることが大切であり、中学生や保護者・中学校教員に対して、多くの機会をとらえ積極的に情報を提供していくのがよいのではないかと思う。
- ・各高校において、中途退学の事由を分析するなどし、実情に応じた対応を行ってほしい。



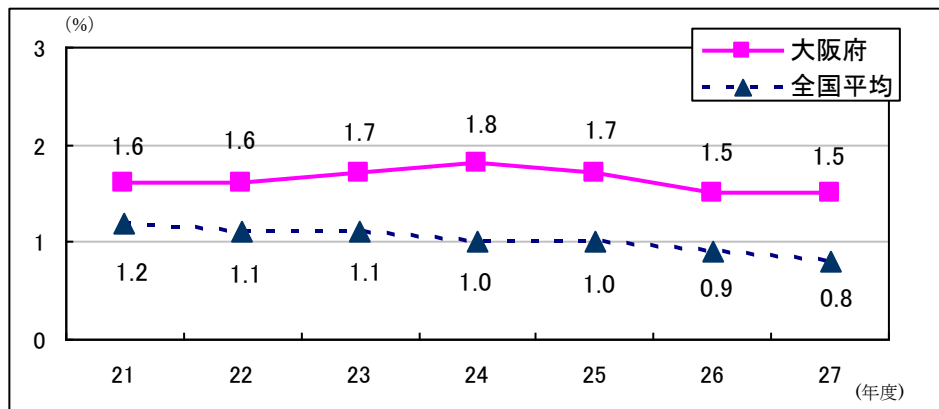
(参考)

◆指標 13 府立高校卒業者の就職率（就職者の就職希望者に対する割合）



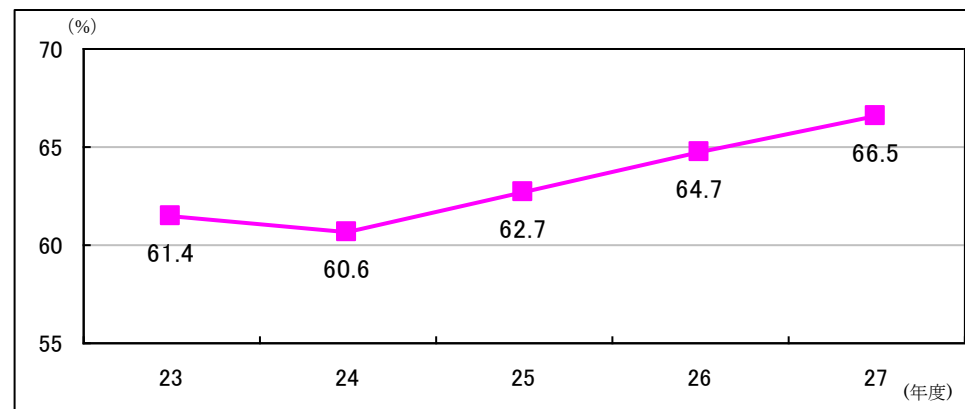
※府教育庁調べ及び文部科学省「高等学校卒業者の就職状況調査」  
 ※「キャリア教育支援体制整備事業」  
 対象校 39 校（府立高校 34 校、私立高校 5 校 ※H27 年度）

◆指標 14 府立高校全日課程の生徒の中退率



※府教育庁調べ及び文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

◆指標 15 グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) における大学進学率（現役進学率）



※府教育庁調べ  
 ※GLHS：グローバル社会をリードする人材の育成をめざして教育活動を行う府教育委員会が指定した学校 10 校 (H26 年度末時点)